

石原沢遺跡Ⅰ・Ⅱ

袋井市モデル集道7号新設事業に伴う発掘調査報告書

1997. 3

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所農林課

石 原 沢 遺 跡 I

平成3年度 袋井市集道新設事業に伴う
石原沢遺跡発掘調査事業報告書

(遺 構 編)

1 9 9 7 . 3

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所農林課

1. 本書は平成3(1991)年9月2日～平成4(1992)年3月20日の期間に、袋井市村松431-12、433-5他で実施した契約名「平成3年度袋井市集道新設事業に伴う石原沢遺跡発掘調査事業」の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の委託契約書では平成3年8月31日付で当初委託金は4,000,000円(消費税を含む)であったが、平成4年2月18日に集道用地の未買収により発掘調査の予定地が減ったため変更契約がされて委託金は1,520,000円に減額された。
3. 第1次の発掘調査(調査総面積1,102㎡)は、平成3年度に森井雅彦(袋井市教育委員会)が担当し、教育委員会事務局職員が補佐した。また、発掘調査にあたり農林課で事業を担当された白井康晴氏(当時:農林課土地改良係)には事前の準備から調査全般までたいへんお世話になった。また、平成8年度に実施した平成3年度分の出土遺物資料整理については朝平清氏(農林課農林土木係)に多大な労力をお掛けした。また経理事務では樽松みどり氏(同)の手を煩わせた。ここに記して感謝したい。
4. 石原沢遺跡は袋井市・掛川市境に位置しているため、今回の発掘調査と周辺遺跡の調査結果をまとめると次のとおりである。

調 査 年	発掘調査遺跡名	発 掘 調 査 の 原 因	発掘担当者
昭和51年(1976) 昭和52年(1977)	袋井市陣屋内・浅間裏・陣屋北・久野山・東山の遺跡	静岡カントリークラブ袋井ゴルフ場建設工事のための試掘調査。	芝田文雄 山村 宏 (遠考研)
昭和52年(1977)	掛川市金塚古墳	中部電力による高圧電線鉄塔改修工事。	岩井克充
昭和55年(1980)	掛川市金塚古墳	国県補助事業による測量調査のため。	岩井克充
昭和56年(1981)	掛川市金鎗原遺跡	国県補助事業による茶園改植のため。	岩井克充
平成3年(1991)	袋井市石原沢遺跡	補助事業モデル集道7号建設のため。	森井雅彦

5. 発掘調査に関する事務は袋井市教育委員会生涯学習課職員がおこなった。
6. 発掘資料はすべて袋井市教育委員会が保管している。

目 次

第1章	発掘調査に至る経過	1
第2章	調査の経過	1
第3章	調査体制	2
第4章	調査の方法	2
第5章	歴史的環境	3
第6章	遺構	4
第7章	まとめにかえて	4

挿 図 目 次

第1図	石原沢遺跡の位置 (1/50,000)
第2図	発掘調査区の位置 (1, 2, 500)
第3図	調査区全体図
第4図	A地区全体図
第5図	トレンチ全体図

写真図版目次

図版1

- (1) 石原沢遺跡の遠景（掛川市金鈴原遺跡より石原沢遺跡を望む）
- (2) 発掘調査の状況

図版2

- (1) 石原沢遺跡の全景
- (2) 石原沢遺跡より南を望む（金鈴原遺跡や各和金塚古墳方向を見る）

図版3

- (1) B地区 第2トレンチの全景（南より）
- (2) B地区 第2トレンチの全景（北より）

図版4

- (1) B地区 第1トレンチの全景（南より）
- (2) B地区 第1トレンチの全景（北より）

図版5

- (1) A地区 調査区の南西部分
- (2) A地区 019完掘写真（東より）

図版6

- (1) A地区 掘立柱建物跡018完掘写真（東より）
- (2) A地区 掘立柱建物跡018完掘写真（北より）

図版7

- (1) A地区 溝跡013、溝跡015の遺物出土状況
- (2) A地区 石原沢3号墳（奥に位置する）

図版8

- (1) A地区 調査区の中央部分
- (2) A地区 調査区の南西部分

図版9

- (1) A地区 石原沢2号墳（奥側）と土壌020
- (2) A地区 土壌020のセクション

図版10

- (1) A地区 溝跡001骨片確認状況
- (2) A地区 溝跡001遺物出土状態

図版11

- (1) A地区 土壌003遺物出土状況
- (2) A地区 溝跡004遺物出土状況

図版12

- (1) A地区 溝跡013遺物出土状況
- (2) A地区 溝跡015遺物出土状況

図版13

- (1) A地区 土壌020遺物出土状況
- (2) A地区 土壌020遺物出土状況

図版14

A地区 溝跡015出土土器（1）

図版15

A地区 溝跡015出土土器（2）

図版16

A地区 溝跡015出土土器（3）

第1章 発掘調査に至る経過

石原沢遺跡の発掘調査に至る経過としては、平成3年度の予算編成作業直前に、市農林課より市教育委員会に市内村松地内で集道7号建設に関連して遺跡の発掘調査について具体的な相談があった。当初、本遺跡の名称は掛川市側の名称「金鑄原（かないばら）遺跡」で呼称されていた。金鑄原遺跡と言うのは昭和40年と昭和54年の静岡県遺跡地名表や、昭和53年の文化庁発行の全国遺跡地図（静岡県）には未登録の遺跡であり、昭和50年に内藤次郎氏、岩井克充氏により当該地を含めた掛川市の各和原段丘を踏査した結果、土器の採集によって知られるようになったと言われている。ただし、昭和60年制作の袋井市遺跡地図・地名表では「石原沢遺跡」で該当地は登録されており、これ以降は一般的にはこの名称を使用している。ただし、平成6年の静岡県遺跡地図になると段丘上の複数の遺跡を近くにあるというだけでひとくくりにして表記しており（山谷も時期や遺跡の性格の考慮もなく範囲が設定されている）遺跡地図としてはあまり有効ではない。さて、これらの経緯を受けて袋井市長豊田舜次（農林課担当）より文化庁長官あて平成3年4月25日付で「埋蔵文化財発掘の通知について」（文化財保護法第57条の3）が提出された。これによると工事は幅7mの道路を平成3年11月1日より工事する予定となっていた。平成3年5月9日に静岡県教育委員会教育長生田武より袋井市長（農林課担当）あてに「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」が届き工事着手前の発掘調査の指導があった。市教育委員会はさっそくこの通知を市農林課に伝達するとともに発掘調査の準備にとりかかった。

第2章 調査経過

平成3年5月20日	発掘用レンタカーのリース開始。
5月27日～29日	調査の開始。まず、3日間にわたり重機により表土の除去作業。
5月28日	仮設ハウスと仮設トイレの設置。
5月30日	発掘作業員の雇用開始。B地区の第1トンチより調査に入る。陶器片、須恵器片なども出土する。
6月4日	A地区も調査開始。
7月23日～26日	遺構平面実測作業。
7月27日	調査完了にともない仮設ハウスと仮設トイレの撤去。
7月31日	現場の発掘調査が終了し、現地作業終了報告をおこなう。
8月1日～9月15日	女子資料整理員により出土品の洗浄・注記作業を行う。
8月12日	袋井市教育委員会教育長浅井通男名で静岡カンントリー袋井コース業務課長石川俊一氏に、石原沢遺跡の範囲が静岡カンントリー袋井コースの所有地（袋井市村松431-1）に及んでいることを通知する。
8月31日	契約名「平成3年度袋井市集道新設事業に伴う石原沢遺跡発掘調査事業」の委託契約が締結される。
平成4年2月18日	未買収地が残る発掘調査の縮小に伴い委託の変更契約約書が締結される。
3月20日	平成3年度事業の完了報告書が提出される。
平成9年3月20日	平成3年度調査の発掘調査報告書が刊行される。

第 3 章 調 査 体 制

1. 平成 3 年度の発掘調査体制（当時）

発掘調査計画機関	袋井市役所農林課			
発掘調査指導機関	静岡県教育委員会文化課			
発掘調査実施機関	袋井市教育委員会			
教 育 長	浅井 通男			
社会教育課長	岩崎 保			
文化振興係長	小粥 保夫			
主 任 主 査	吉岡 伸夫			
主 任 主 事	建部千代子			
主任学芸員	永井 義博	加藤 理文	松井 一明	
学 芸 員	白澤 崇	森井 雅彦		
発掘参加者	大津 清	鈴木 衛	鈴木 武	
	榊原 秋平	兼子 肇	鈴木 定雄	
	高橋 邦夫	高橋 四郎	太田 清子	
	内野 則子			

2. 平成 8 年度の出土品資料整理体制

資料整理計画機関	袋井市役所農林課			
資料整理実施機関	袋井市教育委員会			
教 育 長	浅井 通男			
社会教育課長	鈴木 雅実			
文化財係長	吉岡 伸夫			
主 査	永井 義博			
主任学芸員	松井 一明	森井 雅彦		
学 芸 員	白澤 崇			
経 理 事 務	鈴木寿美子			
資料整理作業	山下 悦子	大庭 京子	高木 啓子	

第 4 章 発掘調査の方法

発掘調査は大きくわけて、現在の道路を拡幅するため茶園内を発掘調査した B・C 地区と、山を切り開いて道路を建設する A 地区の 2 種類の調査になった。B・C 地区は道路に沿ってトレンチを 2 本設定し、試掘調査を行った。遺構・遺物が発見されたので本調査として対応した。山を切り開く A 地区は重機を投入して表土を除去し、精査をして遺構確認をした後、作業員の手により発掘調査に取りかかった。現地は水も電気もなく、蒸し暑い夏の日のもと劣悪な環境での調査であった。

現場では全ての調査区をカバーするグリットを設定して遺物の取り上げや測量の基準として活用した。遺構・遺物の実測図は 1/20 を基準として部分的の詳細図として 1/10 を作成した。遺構・遺物の写真撮影は中型カメラ（アサヒペンタックス 6×7）と小型カメラ（ニコン FM）2 台を使用して撮影した。使用フィルムはモノクロフィルムは富士写真フィルム工業株式会社のネオパン S S を使用し、リヴァーサルフィルムは同じくフジクローム 100 デイライトフィルムを使用した。

第5章 地理的・歴史的環境

今回の発掘調査地点は、J R 袋井駅からはるか北東に約5 Km離れた袋井市村松地区内の山中である。現地は掛川市との市境に位置して周辺の茶園の耕作者たちもすべて掛川市各和地区や高田地区のみなさんであった。近くの狭い農道は、袋井から掛川市北西部への抜け道として時々車両の通行はあるが、あとは茶園を管理する農家の人たちの機械音がわずかに響くだけである。現場から袋井方面は谷山に阻まれて見通しはきかないが、掛川方面は眼下に谷間の水田と民家を望むことができる。ところで、袋井市において本遺跡を「石原沢遺跡」と名称を決まるまでは、全ての書類には掛川市側の遺跡名である「金鎗原遺跡（かないばらいせき）」を使用していた。この金鎗原遺跡とは、1982年に掛川市教育委員会によって発行された同遺跡の調査報告書によると次の経緯があった。金鎗原遺跡は昭和40年、昭和54年の静岡県遺跡知名表には登録されていない未発見の遺跡であったが、昭和50年ころ内藤次郎氏と岩井克充氏により各和原段丘の分布調査によって発見された。さらに、各和原段丘に茶園を営営する土地所有者より茶園の改植計画がおこり、昭和56年に掛川市教育委員会により発掘調査がおこなわれ遺跡の性格が明らかになってきたのである。今回の石原沢遺跡の調査は、周知の文化財である石原沢古墳群の調査とともに、各和原段丘にひろがる金鎗原遺跡の一部が袋井市域に広がっているとの考えで発掘が計画された。

地理的環境は、遺跡の下を流れる原野谷川は掛川市北部の八高山より流れて流域に多くの解析谷や河岸段丘そして沖積地を形成しながら袋井市域を通して太田川と合流しているが、同川右岸の和田岡では上位・中位・下位の三段にわたって段丘がみとめられる。上位の段丘は標高54～66mほどに、中位の段丘は標高51～56mほどに、下位の段丘は30～40mほどである。また、高田原においては吉岡原の中位段丘に続くもので標高41m～51m内外である。そして、谷を隔てた南の各和原では上位段丘が標高43～50m内外、中位の段丘が標高34m～36m内外、下位の段丘が30m内外である。今回調査された石原沢遺跡は、金鎗原遺跡と同じく上位段丘の中程からやや上に位置する立地である。さて、歴史的環境としては原野谷川流域には各時代にわたって多数の遺跡が分布している。縄文時代～弥生時代の遺跡について見ると原野谷川右岸の吉岡地区では吉岡原上位段丘上には東原遺跡、中原遺跡、溝ノ口遺跡、吉岡原遺跡、瀬戸山遺跡、上ノ段遺跡等が分布し、中位の段丘上には花ノ腰遺跡、吉岡下ノ段遺跡が広範囲に分布して、下位の段丘には林遺跡、西原遺跡がある。つぎに高田原中位段丘上には女高遺跡、高田遺跡、花ノ腰遺跡がある。実はこれらの遺跡群は石原沢遺跡とは谷を挟んで相対峙する場所にあるため、今後遺跡立地を考える上で重要なカギを握っていると考えられる。そして、高田地区南側の小沖積地を隔てて南から北に伸びる通称「各和原段丘」の掛川市域は全体が弥生時代～古墳時代前期の遺物散布地となっており、各和金鎗原遺跡と高田金鎗原遺跡等がある。そして、同段丘の袋井市域で今回調査を行った石原沢遺跡は最も奥に位置する遺跡である。古墳時代になると、この一帯には中遠地方を代表する和田岡古墳群が成立してくる。石原沢遺跡の位置する各和原段丘にも、この古墳群を代表する各和金塚古墳（前方後円墳）が5世紀に登場してくる。詳しく段丘上を確認していくと、最奥部の袋井市域には数基の円墳からなる石原沢古墳群が山中にあり、さきほどの各和金塚古墳が続き、さらに下流1 Kmには掛川市域の永源寺古墳群や袋井市域の菅ヶ谷横穴群があり、さらに下って段丘が南の平野分に近くなると前方後円墳1基を含む宇佐八幡古墳群や短甲を出土した石ノ形古墳が分布している。そして、平野部では国1バイパスの関連調査で発掘され、奈良時代の官衙遺跡として著名な坂尻遺跡に至るが、同遺跡は奈良時代の遺構の下層に古墳時代の遺構も多数検出しておりこの付近の古墳時代の集落跡では最大級の規模を持つ可能性もある。

第6章 遺 跡

(A地区)

山林の裾部を削りながら北へ向かう予定地の一部である。現在の農道より8mで北へ50mまでが今回の発掘調査区である。調査区はすべて山の斜面の一部でB地区の平坦な茶園部分とは異なる立地となっている。ここは、周知の文化財・金鈔原遺跡とは異なり石原沢古墳群の範囲として調査は行われた。A地区の約1,700㎡の中には2基の古墳の周溝の一部と溝跡、土壌、ピットなどが散在して検出され、まとまった遺構は少なかった。溝跡は弥生時代後期～古墳時代前期の遺構で代表的なものには004、006、010、011、014、015などがあり、土壌では003、005、006、013などがある。ピットも散在しているが、このうち掘立柱建物跡として調査区の南側の平坦の近いところから018が検出され、金鈔原遺跡との関連が示されている。

古墳は本調査地周辺には周知の文化財として「石原沢1号墳」、「石原沢2号墳」の2基が登録されていたが、今回の調査でこれらとは別に新たにもう1基の円墳の周溝の一部を確認した。周知の文化財の南側に位置する新発見の古墳を「石原沢3号墳」と呼ぶことにする。

(B地区)

〈第1トレンチ〉

現在の油山寺道より右に折れ、2車線で北東に走る完成済みのモデル農道を谷沿いに上っていくとT字路に突き当たる。これを左に曲がって最初のトレンチが第1トレンチである。「静岡県遺跡地図」では金鈔原遺跡の範囲と重なる位置である。第1トレンチは現在の細い農道に沿って幅0.7m、長さ12.5mで設定された。茶園の耕作土を除去して遺構確認を行うとピットや土壌状の遺構がいくつか重複して確認された。代表的な遺構としては023、024などがある。ただし、トレンチの幅が0.7mという狭い範囲のため住居跡などの個々の遺構の性格までは十分に把握することはできなかった。

〈第2トレンチ〉

第1トレンチの西側に同じく農道に沿って幅0.6m、長さ8.8mでトレンチは設定されている。このトレンチの遺構の特徴は、土壌やピットなどで大型の遺構の一部を検出しているようである。代表的な遺構は、021、022、025などであるが、各々の遺構のはっきりした性格の把握することはできなかった。一部には茶園の根や風倒木の跡も含まれているのかもしれない。

第7章 まとめにかえて

石原沢遺跡の概要について、第1次調査の担当である森井雅彦学芸員（当時）は次のように記している。「本調査において検出された遺構は、周知の埋蔵文化財・石原沢1号墳1基、古墳1基、溝状遺構8条、土坑9基、ピット28基、掘立柱建物址1棟、弥生時代土坑から当時使われた土器群が一括出土した。1、2トレンチからも多くの土坑、ピットが確認された。また、石原沢1号墳付近の包含層から奈良時代所産と思われる須恵器の蓋が出土しており、調査地付近には本調査で確認された弥生時代、古墳時代以外の遺跡が所在するものと考えられる。」（発掘調査の概要より）

なお、出土遺物についてはその一部を第1次調査の写真図版に掲載したが詳細については遺物係を参照願いたい。最後に、本調査にあたり農林課の皆さんにはたいへんお世話になりました。また、地元の農家の皆さんの協力にも助けられました。ここに記して皆さんへの感謝の気持ちにかえさせていただきます。ありがとうございました。

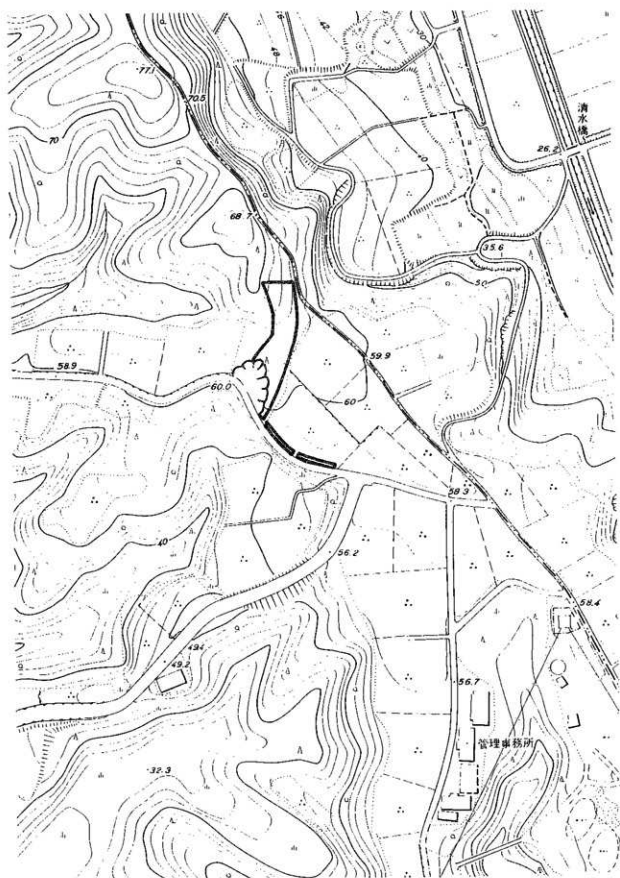
(参考文献・引用文献)

- | | | | |
|------|----------|----------|-------------------|
| 1978 | 掛川市教育委員会 | 『金塚古墳』 | 高圧電線鉄塔改修に伴う発掘調査報告 |
| 1981 | 掛川市教育委員会 | 『各和金塚古墳』 | 測量調査報告書 |
| 1982 | 掛川市教育委員会 | 『金鎗原遺跡』 | 発掘調査概報 |
| 1982 | 掛川市教育委員会 | 『中原遺跡』 | 発掘調査概報 |
| 1983 | 袋井市役所 | 『袋井市史』 | 通史編 |
| 1983 | 掛川市教育委員会 | 『行人塚遺跡』 | 発掘調査概報 |
| 1985 | 掛川市教育委員会 | 『女高遺跡』 | 発掘調査概報 |
| 1988 | 掛川市教育委員会 | 『高田遺跡』 | 発掘調査概報 |

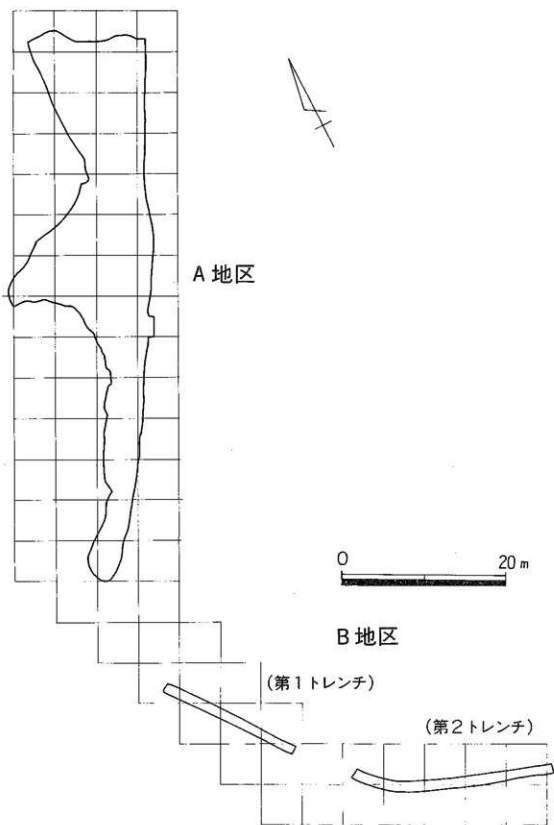
插图



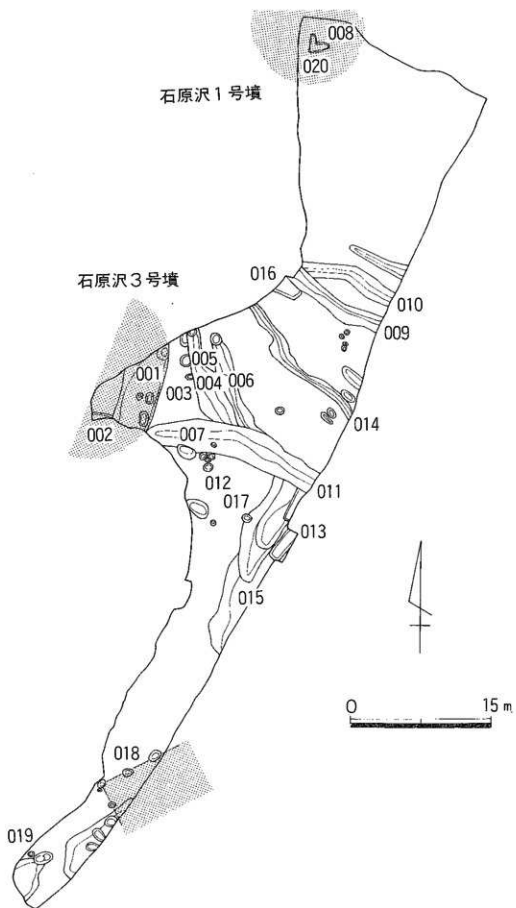
石原沢遺跡の位置 (1/50,000)



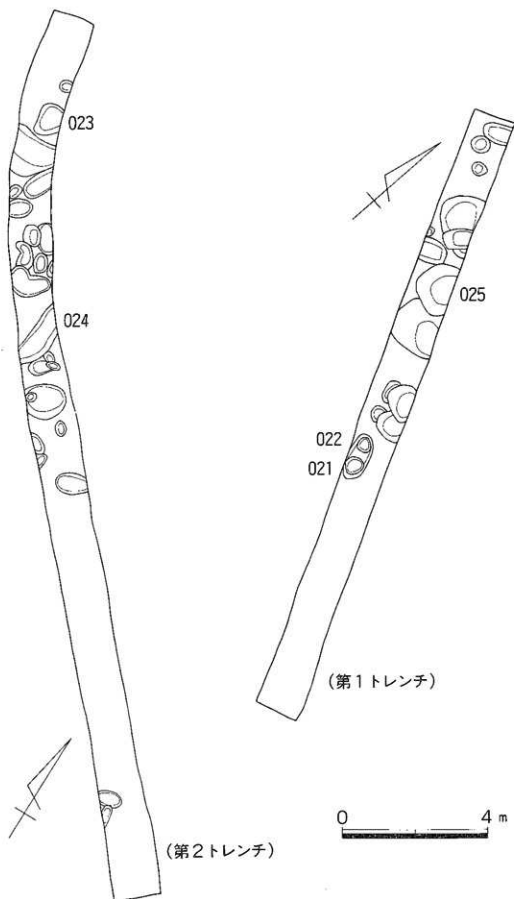
第2図 調査区の位置 (1/2,500)



第3図 調査区全体図



第4図 A地区全体図



第5図 トレンチ全体図

写 真



(1)石原沢遺跡の遠景（掛川市金鑄原遺跡より石原沢遺跡を望む）



(2)発掘調査の状況



(1)石原沢遺跡の全景



(2)石原沢遺跡より南を望む(金鑄原遺跡や各和金塚古墳方向を見る)



(1)B地区トレンチの全景（南より）



(2)B地区トレンチの全景（北より）



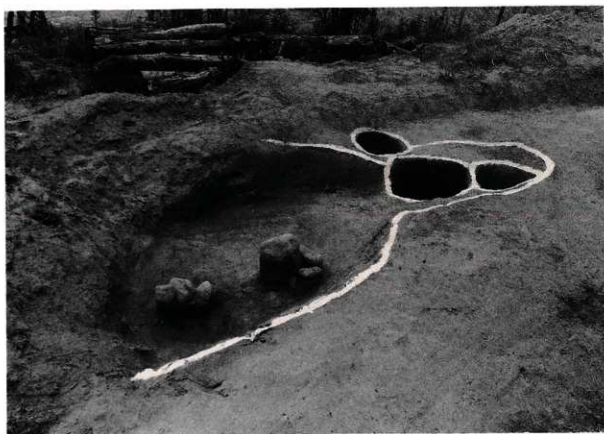
(1)B地区 第1トレンチの全景(南より)



(1)B地区 第1トレンチの全景(北より)



(1)A 地区 調査区の南西部分



(2)A 地区 019完掘写真(東より)



(1)A地区 掘立柱建物跡018完掘写真(東より)



(2)A地区 掘立柱建物跡018完掘写真(北より)



(1) A地区溝跡013、溝跡015の遺物出土状況



(2) A地区 石原沢3号墳(奥に位置する)



(1)A地区 調査区の中央部分



(2)A地区 調査区の南西部分



(1)A地区 石原沢2号墳(奥側)と土壙020



(2)A地区 土壙020のセレクション



(1)A地区 溝跡001 骨片確認状況



(2)A地区 溝跡001 遺物出土状態



(1)A地区 土壤003 遺物出土状況



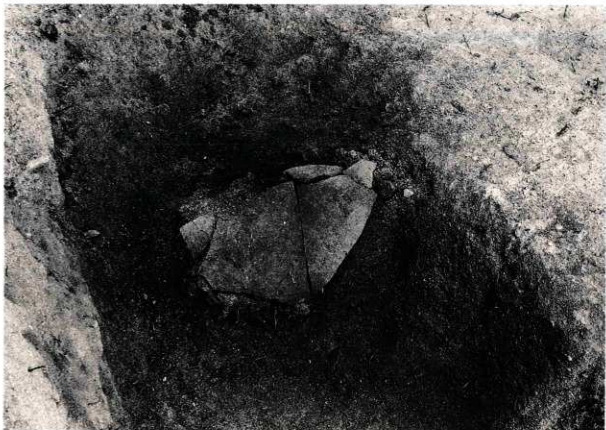
(2)A地区 土壤004 遺物出土状況



(1)A地区 土坑013 遺物出土状況



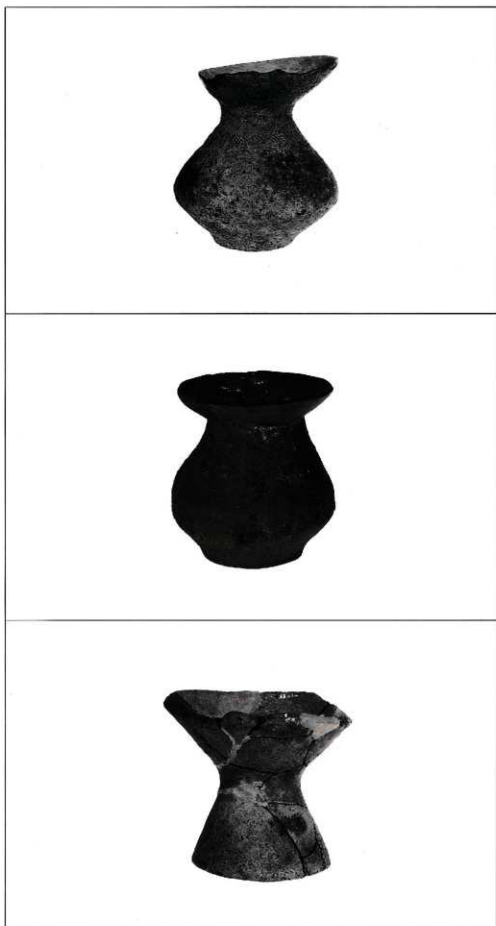
(2)A地区 土坑015 遺物出土状況



(1)A地区 土坑020 遗物出土状况



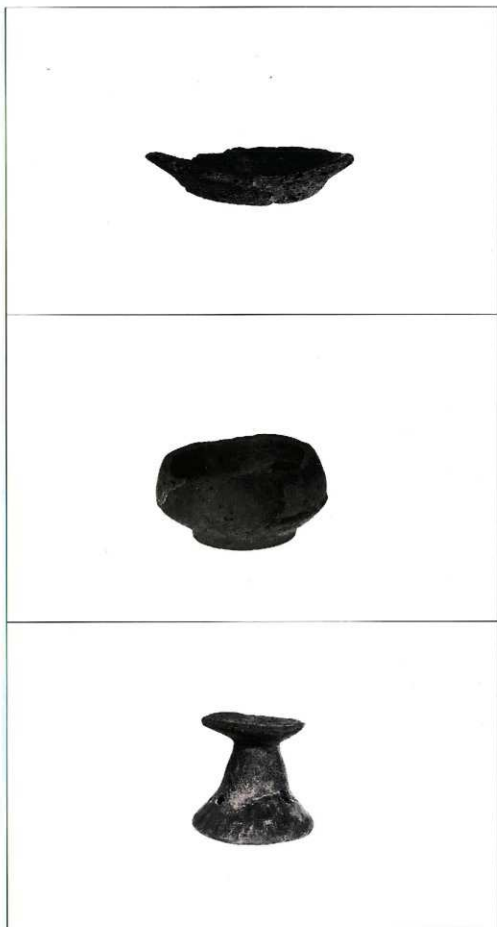
(2)A地区 土坑020 遗物出土状况



A地区 溝跡015出土土器(1)



A地区 溝跡015出土土器(2)



A地区 潭跡015出土土器(3)

石原沢遺跡・Ⅱ

平成7年度 モデル集道7号建設に伴う
第2次発掘調査報告書

(遺構編)

1997. 3

袋井市役所農林課
静岡県袋井市教育委員会

1. 本報告書は平成7(1995)年12月15日～平成8(1996)年3月31日の期間に、袋井市村松212-1、-22-23他で実施した平成7年度石原沢(いしはらざわ)遺跡発掘調査事業の報告書である。
2. 発掘調査は平成3年度に農道建設に伴い実施された石原沢遺跡(掛川市の登録名は金鈔原遺跡)内で当時、調査のできなかった未買収地を対象とした継続調査である。
3. 平成7年度発掘調査(第2次調査)は、永井義博(袋井市教育委員会)が担当した。
4. 平成8年度の資料整理・発掘調査報告書作成も永井が担当した。
5. 発掘調査・資料整理は下記の期間で行った。
(発掘調査) 平成7年12月15日 ～ 平成8年3月31日
(資料整理) 平成8年 5月25日 ～ 平成9年3月20日
6. 本事業の農林課の担当は朝平清氏(農林課農業土木係)である。発掘調査にあたり朝平氏にはたいへんお世話になった。ここに記して感謝したい。
4. 石原沢遺跡は袋井市・掛川市境に位置しているため、今回の発掘調査と周辺遺跡の調査をまとめると次のとおりになる。

調 査 年	発掘調査名	調査原因及び発掘担当者	発掘担当者
昭和51年(1976)	袋井市陣屋内・浅間裏・陣屋北・久野山・東山の遺跡	静岡カントリークラブ袋井ゴルフ場建設工事のための試掘調査。	芝田文雄 山村宏
昭和52年(1977)	掛川市金塚古墳	中部電力による高圧電線鉄塔改修工事。	岩井克充
昭和55年(1980)	掛川市金塚古墳	国県補助事業による測量調査のため。	岩井克充
昭和56年(1981)	掛川市金鈔原遺跡	国県補助事業による茶園改植のため。	岩井克充
平成3年(1991)	袋井市石原沢遺跡	補助事業モデル集道7号建設のため。	森井雅彦
平成7年(1995)	袋井市石原沢遺跡	補助事業モデル集道7号建設延長のため。	永井義博

5. 発掘調査に関する事務は袋井市教育委員会生涯学習課職員が、経理事務については農林課職員が担当した。
6. 発掘資料はすべて袋井市教育委員会が保管している。

目 次

第1章	発掘調査に至る経過	1
第2章	調査の経過	1
第3章	調査体制	2
第4章	調査の方法	2
第5章	遺構	3
第6章	まとめにかえて	4

挿 図 目 次

第1図	石原沢遺跡の位置 (1/50,000)
第2図	調査区の位置 (1/2,500)
第3図	調査区全体図
第4図	A地区 1号集石・2号集石実測図
第5図	H地区 全体図
第6図	H地区 土器棺墓群実測図

写真図版目次

図版1

- 1 A地区全景（北より写す）
- 2 集石遺構調査風景

図版2

- 1 集石遺構全景（北より写す）
- 2 集石遺構全景（東より写す）

図版3

- 1 B地区の調査開始の状況
- 2 B地区完了写真（南より写す）

図版4

- 1 C地区の調査開始の状況
- 2 C地区完了写真（南より写す）

図版5

- 1 D地区の調査開始の状況（北より写す）
- 2 D地区完了写真（南より写す）

図版6

- 1 D地区東斜面出土土器（南より写す）
- 2 D地区東斜面出土土器調査状況

図版7

- 1 F地区完了写真（南より写す）
- 2 F地区集石遺構完了写真（南より写す）

図版8

- 1 E地区（手前）、F地区の位置（南より写す）
- 2 G地区完了写真（南より写す）

図版9

- 1 G地区完了写真（南より写す）
- 2 G地区完了写真（北より写す）

図版10

- 1 石原沢古墳完了写真（西より写す）
- 2 石原沢古墳埴輪破片出土状況写真（南より写す）

図版11

- 1 G地区土器棺墓の調査状況（西より写す）
- 2 G地区土器棺墓周辺に散在する弥生土器

図版12

- 1 調査中の土器棺
- 2 土器棺墓群全景（南より写す）

図版13

- 1 土器棺墓群全景（西より写す）
- 2 土器棺墓群全景（西より接近して写す）

図版14

- 1 1号土器棺完掘写真（南より）
- 2 1号土器棺完掘写真（北より）

図版15

- 1 2号土器棺完掘写真（北より）
- 2 2号土器棺完掘写真（南より）

図版16

- 1 3号土器棺・4号土器棺完掘写真（南より）
- 2 3号土器棺完掘写真（南より）

図版17

- 1 4号土器棺完掘写真（南より）
- 2 4号土器棺完掘写真（西より）

図版18

- 1 1号土器棺（上部は欠損している）
- 2 2号土器棺（棺蓋は口縁部を割った破片で塞ぐ）

図版19

- 1 3号土器棺（蓋は壺の底部破片を使用）
- 2 3号土器棺（本体）

図版20

- 1 4号土器棺（蓋は甕を逆さにして使用）
- 2 4号土器棺（大型壺は肩部より上を欠損）

第1章 調査に至る経過

平成7年度の発掘調査に至る経過は、袋井市役所農林課より袋井市教育委員会に、平成7年度中に遅れていたモデル集道7号建設に伴い土地買収の完了した部分を本年度工区として発掘調査を実施したいとの申し出があった。現地は、平成3年に袋井市教育委員会により発掘調査された地点の北側にあたる保安林の中である。現地は袋井市の最東部で掛川市との市境になっており、軽自動車がやっと通る農道が1本あるだけの丘陵上東端の山林の中である。予定地の周囲は優良な茶畑と野鳥の生息する雑木林がひろがり、周辺の施設としては静岡カントリークラブ袋井ゴルフ場の管理事務所と覚堂建設の処分場があるだけの自然豊かなところである。

石原沢遺跡を西に通る小道は『袋井市史資料編（民俗・文化財・年表）』によると、かつての油山寺道で四季折々、巡礼姿の参詣人、風呂敷を背中に背負って語らいながら歩く老人たちなどでなかなかにぎわったとのことである。参道のルートは、原野谷川にかかる同心橋を右折し、北原川村を経て台地の東端を北進して村松村に下る道があったと言われる。特に明治の初めに油山寺の山門が建設された時は掛川城より大八車が数十台何日も何日もひっきりなしに通って大騒ぎだったそうである。

さて、この丘陵上の埋蔵文化財の所在については、昭和52年に遠江考古学会により発行された「静岡カントリークラブ袋井ゴルフ建設工事への提言 一陸屋内・浅間裏・陸屋北・久野山・東山遺跡試掘調査報告書」のゴルフ場用地付近遺跡分布図によると石原沢遺跡が前方後円墳である石原沢2号墳と周辺遺跡として表記しているのが初見である。詳細は別に譲るが本書によると用地内の埋蔵文化財の調査を十分に行うように地元の研究者より開発関係者に貴重な提言がなされている。

第2章 調査の経過

- | | |
|------------|---|
| 平成7年10月1日 | 本来は発掘調査開始予定日であるが、いまだに取りかかることはできない。 |
| 12月1日 | 発掘調査を12月15日より開始する決済が下りる。出土品の資料整理及び報告書作成は本年度中の完了が無理なため平成8年度に行うこととする。 |
| 12月15日 | 発掘調査のための仮設トイレとコンテナハウスを設置する。 |
| 12月18日～19日 | 市の倉庫から発掘器材を現場に運搬。トレンチ設定。古墳の範囲確認。 |
| 12月22日～28日 | 重機による表土の除去。樹木の抜根作業。 |
| 平成8年1月8日 | 本日から調査再開の予定であったが雨で中止となる。 |
| 1月9日 | 北地区の頂部より埴輪の破片が出土する。埴輪の可能性が考えられる。 |
| 1月10日 | 北地区よりもう1片の埴輪が出土。中央区のトレンチの完了写真を撮影する。農林課との打合せも行われる。 |
| 1月11日～12日 | 南地区、石組遺構の調査。北地区で1号土器棺が出土。 |
| 1月16日 | 中央区の土器集中地点の調査を継続。 |
| 1月22日 | 北地区で2号土器棺が出土。1号土器棺も調査を継続。 |
| 1月26日 | さらに北地区で3号土器棺が出土。 |
| 1月29日～30日 | 北地区で4号土器棺が出土。4号土器棺は合せ口タイプと判明。 |
| 2月1日～2日 | 完了写真撮影のための清掃作業。北地区の完了写真の撮影。 |
| 2月5日 | 南地区、その他の遺構の写真撮影。残務整理を除いて現場作業は終了する。器材の撤去。手入れをした後倉庫に収納。出土品の一部を水洗い作業。 |

第3章 調 査 体 制

◎平成7年度の発掘調査体制（当時）

発掘調査計画機関	袋井市役所農林課
発掘調査指導機関	静岡県教育委員会文化課
発掘調査実施機関	袋井市教育委員会
教 育 長	浅井 通男
生涯学習課長	鈴木 雅実
文化財係長	吉岡 伸夫
主 査	永井 義博
主任学芸員	松井 一明
学 芸 員	白澤 崇 森井 雅彦
経 理 事 務	鈴木寿美子
発掘調査参加者	大庭 嘉平 山本 喜久 加藤 博司 加藤 友平 高橋 邦夫 川島 良一 鈴木 定雄 高橋 昭雄 山本 修 高橋 四郎 佐藤 好孝 寺田 しま 木村かず江（以上、平成7年度）
資料整理参加者	山下 悦子 大庭 京子 高木 啓子 （以上、平成8年度）

第4章 発掘調査の方法

平成3年度の発掘調査につづく平成7年度の発掘予定地は、遺跡の所在確認のみが終了しており最初に試掘調査から取りかかった。まず道路予定地内の主要な場所にトレンチを設定し遺構・遺物の確認された地区を平面調査した。また、数ヶ所の平坦地は重機を入れて抜根と表土の除去を行ってから作業員により遺構の確認作業を実施した。現地はすべて山間地で、奥にある茶園に通じる細い道路が1本あるのみの辺鄙な発掘現場であった。そのため、現地へのガス・水道・電気の供給はなく、寒い日も作業員のみなさんにはたいへんな苦労をかけた。また、早朝は地面が凍結してとても堅く、日中は水が溶け出して水浸しになり、強い北西の季節風も容赦なく吹き付け、さらに冬の山中は日没も早く午後4時過ぎには暗くなって発掘現場をつづけるのはとても難かしい状態であった。遺構実測は道路工事用のセンターを基準としてレベルも工事用のベンチマークを利用して実測を行った。遺構平面図は1/20を基本として集石遺構や土器集中地点は1/10で実測した。これに伴い、遺物の取り上げ作業はA～H地点ごとに行い検出遺構には仮登録番号を付けて層位ごと遺構ごとに取り上げた。遺物が比較的少ない調査であったが、土器棺墓群では、大型の土器を取り上げるにあたっては土器内の残留物を確認するため土器下の土と一緒に取り上げて資料整理室で解体した。遺構・遺物の写真撮影は中型カメラ（アサヒペンタックス6×7）と小型カメラ（ニコンF401）を使用して撮影した。使用フィルムはモノクロフィルムは富士写真フィルム工業株式会社のネオパンSSを使用し、リヴァーサルフィルムは同じくフジクローム100デライトフィルムを、カラーフィルムは同じくリアラフィルムを使用した。そして、山間部の樹木の影に悩まされた撮影であった。

第5章 遺 跡

今回の調査地は、平成3年の茶畑と雑木林を中心とした発掘調査地とは異なり、段丘東端の山林部を農道のルートに沿って幅約7m、全長約250mの範囲である。予定地は事前の試掘調査が行われていなかったので遺跡の所在が推定できるA～Cの3地点にまず試掘用のトレンチを入れて遺構・遺物の有無を確認してから拡張して平面調査に入った。

(A地点)

平成3年度に発掘調査をした地点に接した一番南側の調査区である。本調査前の試掘で石組遺構が2基検出されたので拡張区を設定して平面調査を行った。

1. 集石遺構

A地区の試掘トレンチで最初に発見された遺構である。発見状況から中世の集石墓の可能性が高いが遺構内より遺物は出土していない。また、集石遺構の西側に接して小さな土盛りが確認されているが集石遺構との関連は不明である。集石の範囲は長軸120cm×短軸40cm確認面からの高さは約20cmである。石は握りこぶし大のものが多く河原石である。

(B地点)

幅1.2m×長さ19mの遺構確認用のトレンチである。丘陵斜面部分でもあり流れ込みの土砂や遺物包含層は検出されず、地山面である砂層が表土を除去すると確認された。トレンチ内より遺構・遺物は確認されなかった。

(C地点)

幅1.2m×長さ24mの遺構確認用のトレンチである。丘陵斜面部分でもあり流れ込みの土砂や遺物包含層は検出されず、地山面である砂層が表土を除去すると確認された。トレンチ内より遺構・遺物は確認されなかった。

(D地点)

基本的にはA地点と同じ丘陵上になるが北へ約80m離れ、標高も8mあがっている。D地点には5m×9mのグリットを設定したが西側部分が不明のため一部を拡張して調査した。D地点の西側には遺跡地図によると古墳の存在が指摘されていたが用地外のため調査は行っていない。D地点は古墳状に土が盛りあがっていたので通常古墳の調査のように作業員により表土層を慎重に除去していったが、人為的な近世の土取り跡や土砂崩れ跡のため遺構とは認定できなかった。しかし調査区東端の崖の落ち際より幅1m、長さ3m程の範囲に弥生時代後期の土器破片が散布しており、弥生時代の周溝墓や台状墓の可能性も捨て切れない。しかし、前述したとおり山斜面は崩壊が進み確認はできない。

(E地点)

幅1m×長さ4mの遺構確認用のトレンチを十文字に設定したのちに拡張した。丘陵斜面部分でもあり流れ込みの土砂や遺物包含層は検出されず、地山面である砂層が表土を除去すると確認された。トレンチ内より遺構・遺物は確認されなかった。

(F地点)

調査区を設定した後、表土を除去しながら作業員により遺構確認を行った。丘陵中段部分でもあり表土である腐食土を除去すると地山である砂層がすぐに確認された。調査区内から礫群が検出されたが人為的な様子は見られず自然礫の溜りのようであった。トレンチ内より遺物は確認されなかった。

(G地点)

重機により表土を約30cm程除去してから作業員により遺構確認を行った。丘陵中段部分でもあり表土である腐食土を除去すると地山である砂層がすぐに確認された。平面調査区内より遺物は遺構・確認されなかった。

(H地点)

D地点とは谷を挟んだ北側の別の丘陵裾と丘陵上になる。丘陵頂部のため重機を入れることができなかったため作業員により表土の除去を行った。頂部に近い古墳状の高まりの付近の表土下層より約10cm四方の埴輪破片が2点出土した。しかし、古墳時代関連の遺物はこれだけでありその他の土器等は出土しなかった。頂部では現存する長さ2.7m、幅75cmの長方形の土壇状の落ち込みが確認され、これが古墳の主体部になるのかもしれない。

古墳の北側の平坦面では4基の大型の土器棺墓群が検出されたが、これらの土器棺を覆うようにマウンド状の高まりがあり、そこには細片となった弥生土器が散在している。土器棺の埋納後に祭祀が行われた可能性もある。4基の土器棺は次のとおりである。

(1号土器棺)

土器棺墓群の中ではいちばん西側に位置する。棺の埋葬後に地形の変化を受けて、壺形土器の上部はすでに欠損している。1号・2号の土器棺は3号・4号の土器棺と比較するとマウンド状の高まりの端に位置し深さもやや浅い場所である。

(2号土器棺)

マウンド状の高まりの中では高い位置に埋葬された比較的大型の壺形土器である。この壺の法量は全高70cm、口径22cm、底径7cm、胴部最大径50cmで胎土は黄灰色で粗い土である。遺物出土時の状況からこの壺は頸部下方で口縁部を打ち欠いて被葬者を埋葬した後、4枚の破片になった同壺の口縁部を重ね合わせて蓋としている。壺は埋葬穴の中でやや傾いた状況で検出された。

(3号土器棺)

4号土器棺と並ぶように埋葬された大型の壺形土器である。2号棺に比べて口径がやや広いதாக口縁部は大きな欠損もなく、別の壺形土器の底部を蓋にしている。この壺の法量は全高62cm、口径30cm、頸径15cm、胴部最大径55cmで胎土は黄灰色で粗い土である。

(4号土器棺)

頸部から上を打ち欠いて棺本体として使用された大型の壺形土器と、蓋として使用された高台を持たない壺形土器の組み合わせにより構成されている。棺本体となった壺の法量は現存高41cm、打ち欠いた状態の口径20cm、底径7cm、胴部最大径45cmで胎土は黄褐色で粗い土で、蓋となった壺形土器の法量は全高26cm、口径27cm、底径6cm、胴部最大径30cmで胎土は黄褐色である。現地の土層は赤褐色の砂層で、遺構を掘った後も雨風で簡単に崩れていくほどろい土であるため遺構の掘り方もはっきり分からない状態であり3号・4号の土器棺も同一遺構内がまたは別の遺構が重複しているのかさえ不明である。つまり現状では新旧関係は残念ながら正確につかめていない。

第6章 遺跡のまとめ

袋井掛川市境で、各和原段丘上のいちばん奥に位置した石原沢遺跡や金鑄原遺跡（掛川市）についてはいままではほとんど知られていなかった。しかし、『静岡県史』の中で向坂鋼二氏が弥生時代の掘立柱建物跡の紹介の中で静岡県内でも著名な伊場遺跡や登呂遺跡などと伍して金鑄原遺跡に注目をしていた。この中では、弥生時代後期に登場する集落跡の中の掘立柱建物跡に注目して、特に弥生時代の発展期の遺跡の特徴である高床式倉庫を例にとって解説している。ここでは、1柱間×2柱間、または1柱間×3柱間の形態を示すのが一般的で、梁行は広狭にかかわらず1間になるのが弥生時代の特徴であると述べている（1994向坂鋼二「第1編第3章 第2節 米作りのムラ」『静岡県史通史編1』静岡県）。

袋井市が発掘調査をする目的の1つには、遺跡地図に表記されている2基の前方後円墳の有無の確認にあったが、農道のルートが古墳の位置よりもやや東に外れたため古墳があることは確認できたがはたして前方後円墳がどうかの墳形までは確認できなかった。今後は道路の開通に伴っての周辺開発に注意をする必要がある。

A地区出土の集石遺構は、周辺からの出土遺物もなく時期及びその性格も不明である。ただし、第1次調査において、山茶碗や陶器片の出土があるとも言われているので中世～近世の祭祀関連の遺構かもしれない。さらなる出土例の増加を待って再検討していきたい。

D地区において出土した弥生時代後期の土器の集中地点は、土器群の一部も崩落しているほどで、その遺構の正確な住居跡なのか、または台状墓の裾部付近なのかははっきりしない状態であった。しかし、現地には平坦地がなく、土器群の出土状況も細長く溝状であることからなんらかの墳墓に伴う溝状遺構の一部かもしれない。

さて、H地区の丘陵上より発見された弥生時代後期前半の土器棺墓群についてはまったくの新発見であった。4基とも器種と組み合わせが異なる土器棺で、またこれだけの狭い場所に集中して出土することは希有な例といえるだろう。このH地区の場所は開けた平野部を望むには最後の場所であり、各和原段丘上で生活していた、また原野谷川流域で生活していた人々にとっても、まさに「奥都城」と呼ぶにふさわしい立地であろう。ただし、H地区西側にもやや平坦地があるため、この部分にさらに土器棺墓が存在する可能性も十分考えられる。

（袋井市教育委員会 永井義博）

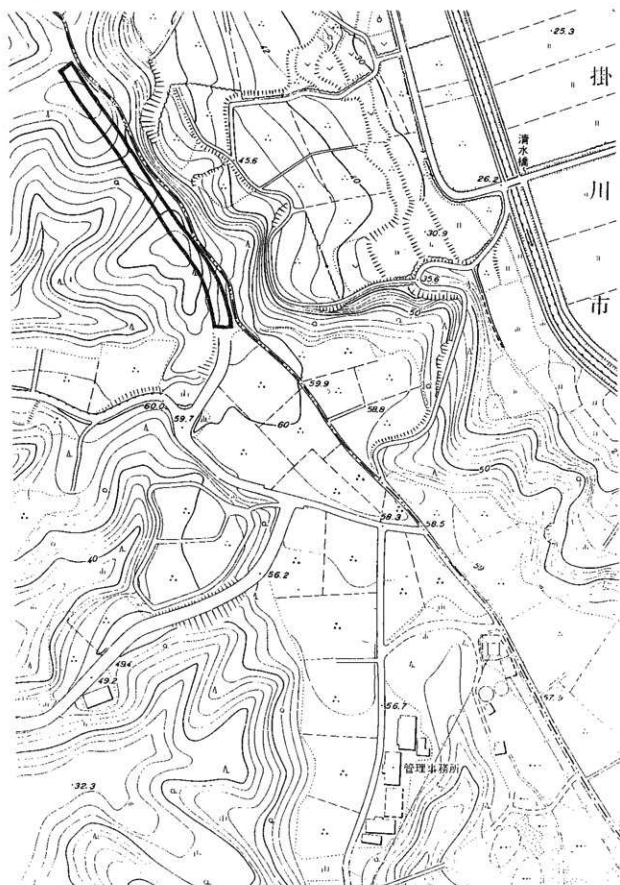
(参考文献・引用文献)

- 1977 遠江考古学研究会 『静岡カントリークラブ袋井ゴルフ場建設工事への提言』
—陣屋内・浅間裏・陣屋北・久野山・東山遺跡試掘調査報告—
- 1978 掛川市教育委員会 『金塚古墳』 高圧電線鉄塔改修に伴う発掘調査報告
- 1981 掛川市教育委員会 『各和金塚古墳』 測量調査報告書
- 1982 掛川市教育委員会 『金鎗原遺跡』 発掘調査概報
- 1982 掛川市教育委員会 『中原遺跡』 発掘調査概報
- 1983 袋井市役所 『袋井市史』 通史編
- 1983 掛川市教育委員会 『行人塚遺跡』 発掘調査概報
- 1985 掛川市教育委員会 『女高遺跡』 発掘調査概報
- 1988 森町教育委員会 『十王山砦跡発掘調査報告書・善千鳥遺跡確認調査報告書』
—中遠地区広域営農団地農道開設工事に伴う発掘調査報告書—
- 1988 掛川市教育委員会 『高田遺跡』 発掘調査概報

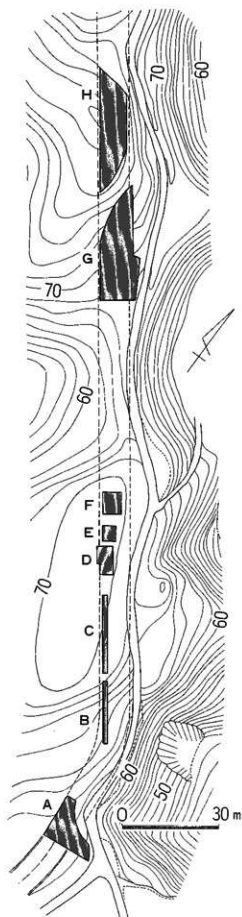
插图



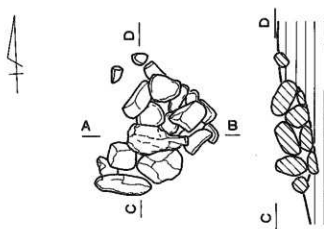
第1図 石原沢遺跡の位置 (1/50,000)



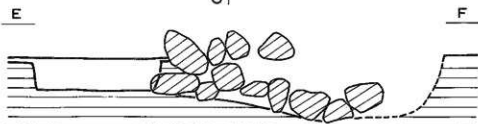
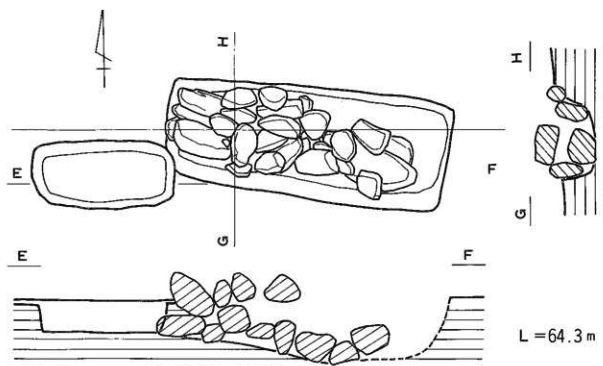
第2図 調査区的位置 (1/2, 500)



第3図 調査区全体図



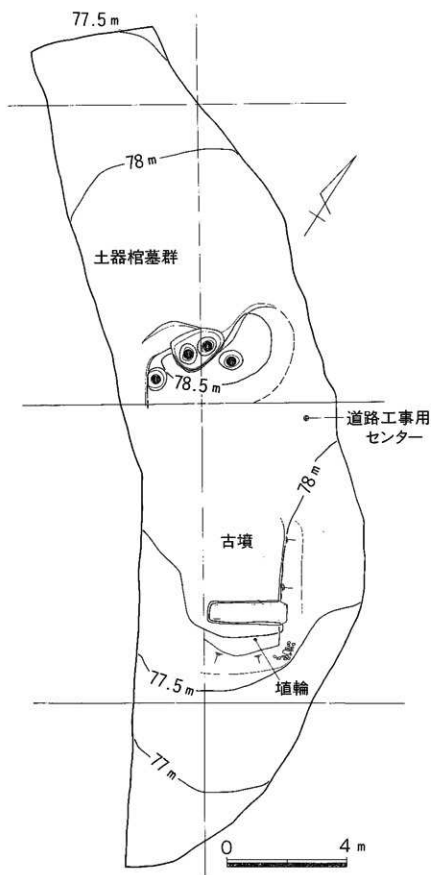
L = 64.3 m



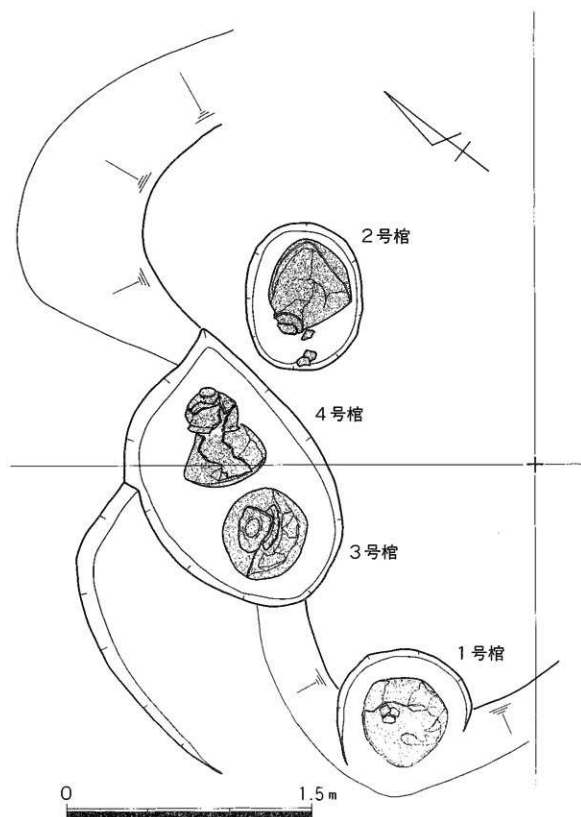
L = 64.3 m



第4图 A地区 1号集石・2号集石实测图



第5図 H地区 実測図



第6图 H地区 土器棺墓群实测图

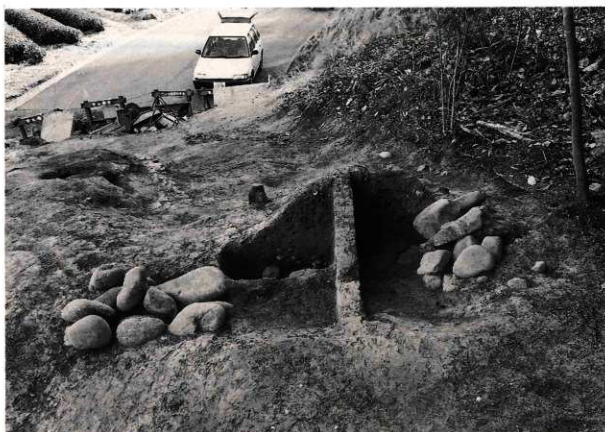
写 真



(1)A地区全景 (北より写す)



(2)集石遺構調査風景



(1)集石遺構全景（北より写す）



(2)集石遺構全景（東より写す）



(1)B地区の調査開始の状況



(2)B地区完了写真 (南より写す)



(1)C地区の調査開始の状況



(2)C地区完了写真（南より写す）



(1)D地区東斜面出土土器（南より写す）



(2)D地区東斜面出土土器調査状況



(1)E地区(手前)、F地区の位置(南より写す)



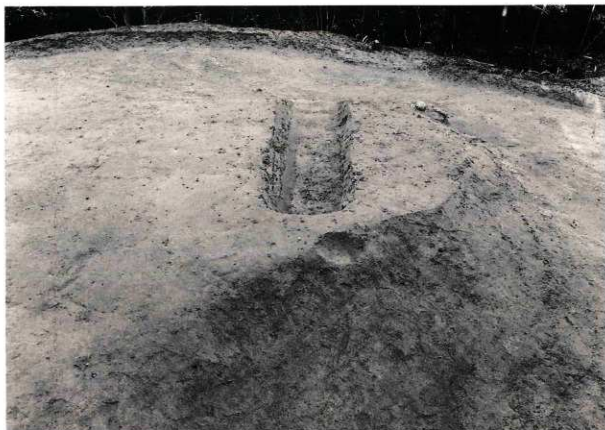
(2)G地区完了写真(南より写す)



(1)G地区完了写真(南より写す)



(2)G地区完了写真(北より写す)



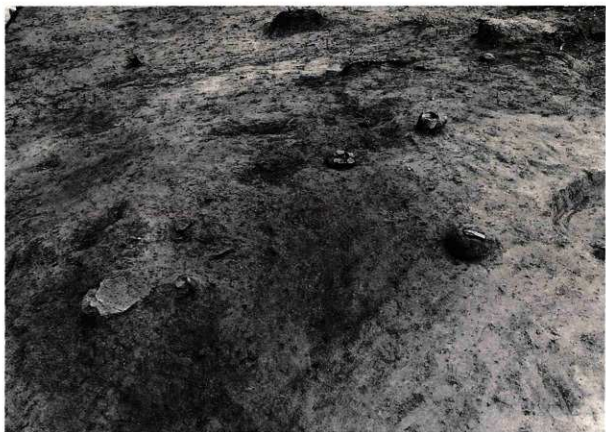
(1)石原沢古墳完了写真（西より写す）



(2)石原沢古墳埴輪破片出土状況写真（南より写す）



(1)G地区土器棺墓の調査状況（西より写す）



(2)G地区土器棺墓周辺に散在する弥生土器



(1)調査中の土器棺



(2)土器棺墓群全景 (南より写す)



(1)土器棺墓群全景（西より写す）



(2)土器棺墓群全景（西より接近して写す）



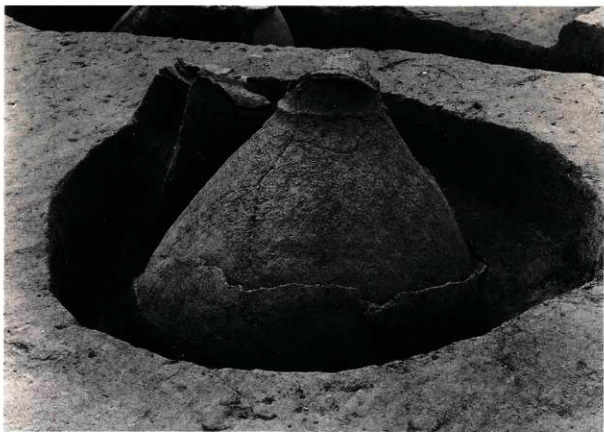
(1)1号土器棺完掘写真（南より写す）



(2)1号土器棺完掘写真（北より）



(1) 2号土器棺完掘写真(北より)



(2) 2号土器棺完掘写真(南より)



(1) 3号土器棺・4号土器棺完掘写真（南より）



(2) 3号土器棺完掘写真（南より）



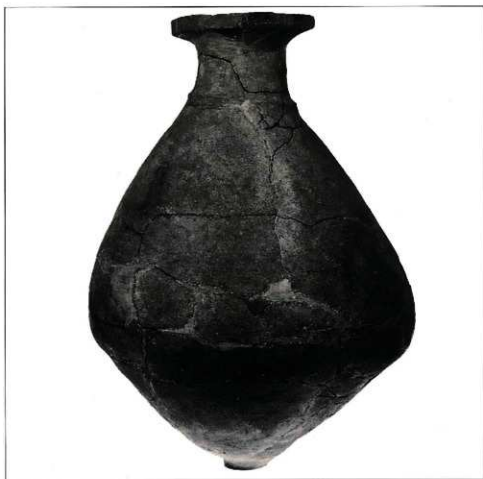
(1) 4号土器棺完掘写真(南より)



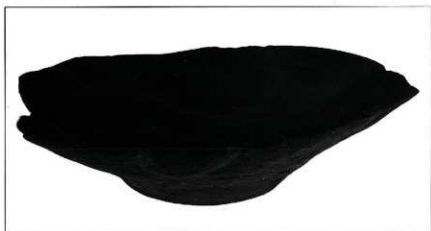
(2) 4号土器棺完掘写真(西より)



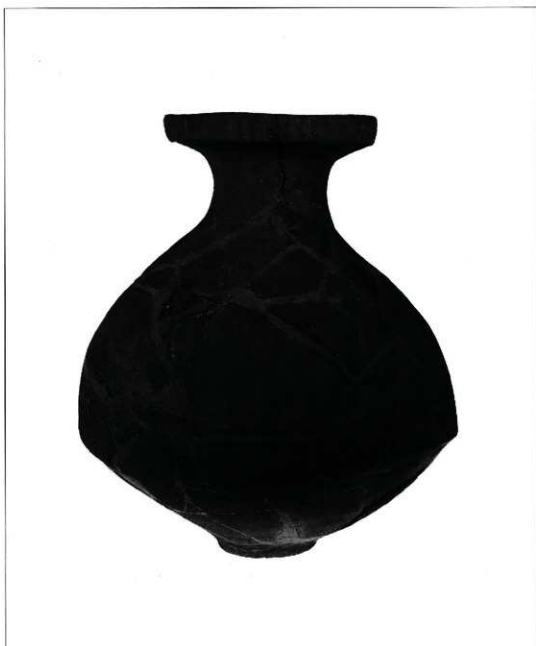
(1) 1号土器棺（上部は欠損している）



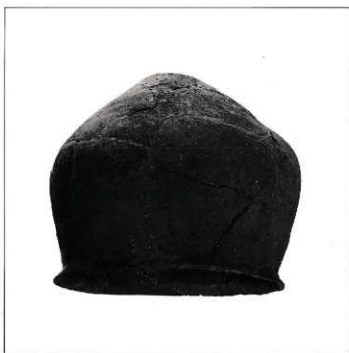
(2) 2号土器棺（棺蓋は口縁部を割った破片で塞ぐ）



(1) 3号土器棺（蓋は壺の底部破片を使用）



(2) 3号土器棺（本体）



(1) 4号土器棺（蓋は甕を逆さにして使用）



(2) 4号土器棺（大型甕は肩部より上を欠損）

報告書抄録

ふりがな	いしはらざわいせき							
書名	石原沢遺跡Ⅰ・Ⅱ							
副書名	袋井市モデル集道7号新設事業に伴う発掘調査報告書							
編集者名	永井 義博							
編集機関	袋井市教育委員会							
所在地	〒437 静岡県袋井市新屋・丁目1番地の1 TEL0538-44-3141(直通)							
発行年月日	1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (一)	調査 原因
いしはらざわいせき 石原沢遺跡	静岡県袋井市 むらまつ 村松431-12、 433-5、 212-1、 212-5	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	(第1次調査) 19910902 ↓ 19920320 (第2次調査) 19951215 ↓ 19960331	(第1次調査) 約2,000㎡ (第2次調査) 約2,000㎡	モデル集 落農 道の 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
いしはらざわいせき 石原沢遺跡	集落跡 土器棺墓群 古墳 集石遺構	弥生時代 古墳時代 中世 近世	住居跡、溝跡 柱穴跡、土壇 古墳	弥生土器 土師器 埴輪片 陶器片		弥生時代中期後葉～ 後期前葉の高地性集 落跡として登録され ている掛川市金鑄原 遺跡のつづきである。 なお、山間部では古 墳の一部と土器棺墓 群の調査も行われた。 平成3年度に第1 次調査が、平成7年 度に第2次調査が行 われ、平成8年度に 発掘調査報告書が刊 行された。		

石原沢遺跡Ⅰ・Ⅱ

袋井市モデル集道新設事業
伴う発掘調査報告書

1997年3月

編集 静岡県袋井市新屋1-1-1
袋井市教育委員会
☎0538-44-3141

発行 袋井市役所 農林課

印刷 静岡県榛原郡吉田町片岡2210

松本印刷株式会社